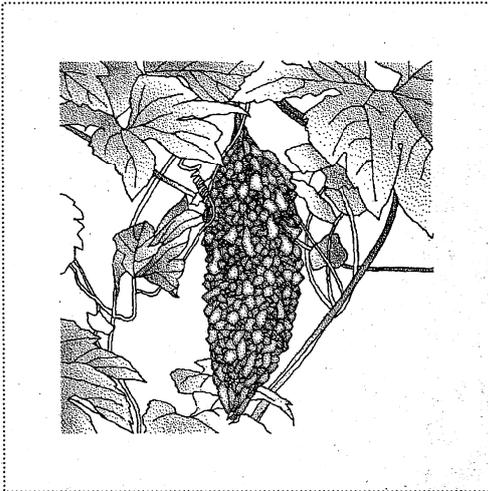


1果に葉は5枚程度

—— 鮫島 國親

以前は南九州、沖縄で地域特産野菜として、夏場を中心に消費されていましたが、今では全国に知られるようになり消費が拡大しています。果実は紡錘形で果肉が厚く、ジューシーでにがみがやや弱いです。ビタミンC含量が特に多く、カロテン、ミネラル類、食物繊維も豊富で、食欲を増進させ夏パテ防止によいといわれています。今回は一足早く収穫できるトンネル早熟栽培を紹介します。

発芽適温は25-30度、生育適温は17-28度で、乾燥に強く多日照を好みます。土壌病害に弱いため接ぎ木が必要です。呼び接ぎが一般的で、台木にはカボチャ(新土佐)を用います。種まき時期は2-3月、定植期は3-4月です。ニガウリの種子は硬いので、種子のとがった方の先端をつめ切りなどで切断し、水に数時間から一晩漬けると発芽がそろいます。育苗日数30日、本葉三枚程度で定植します。本ぼは1平方メートル当たり苦土石灰100グラム、堆肥3キロ、緩効性の化学肥料100グラム(三要素15%の場合)を目安として施します。うね幅は3-5メートルで、トンネル



幅1-1.5メートルに透明ポリをマルチします。株間は2メートルくらいが適当です。トンネルは日中30度、夜間15度を目標に、つるを立ち上げる直前まで被覆し生育を促しましょう。トンネル除去と同時に、うね中央に高さ2メートルの支柱を立て、ネットを一行張ります。親づるは8-10節で摘心します。子づるは4-6本、ネットに立ち上げ、ネット最上部で摘心もしくはそのまま伸ばします。孫づる以降は水平棚に誘引します。授粉は昆虫が活発になるまでは、雄花を用いた人工交配が必要です。子づる、孫づると順に着果させますが、着果数が多いと果形が乱れます。一果当たり5枚程度の葉数が必要です。古い葉や込み合った部分の葉は適宜除去しましょう。開花後

20日前後で収穫しますが、気温の高い時期は肥大が早く、収穫後果皮が黄化しやすいです。朝の涼しいうちに適期(長さ30センチ、重さ250グラム、直径6センチ程度)に収穫しましょう。

(鹿児島県農業開発総合センター副所長)

平成19年4月12日(木) / 南日本新聞

